

いえうらこう

家浦港（県管理地方港湾）

家浦港は小豆島の西方に浮かぶ豊島の北西端、家浦湾内にあり、備讃瀬戸のほぼ中央にあることから、瀬戸内海航行船舶の薪炭、水、食糧などの最寄補給港として栄えてきました。

現在では宇野～豊島～土庄間のフェリーをはじめとする定期航路の寄港地であるほか、貨物船、漁船もここを利用し、島内の生活物資の移入、庭園用として名高い「豊島石」の灯籠等、特産品の移出、また、島民の通勤・通学等の乗降港および漁港として島民の生活上、必要不可欠な港湾となっています。

本港の整備は大正の初期、豊島村工事として着手されたのが始まりで、昭和27年以降は県工事として逐次整備を進め、現在に至っています。

また、近年では、豊島の良好な自然条件が注目を集め、釣り、海水浴、キャンプ等のレクリエーションでも島を訪れる人が増えており、本港は豊島と他地域との交流拠点として、ますますの発展が期待されています。

